

和欧混植の組版例

2020.10.28

小林 敏

0 この文書の目的

和欧混植の組版は、様々な課題がある。ここでは問題点を指摘することではなく、様々な組版例を示し、どのように考えていけばよいかの基礎的なデータを示すことにした。比較することで、望ましい組版を考える素材となるように、ここで示した組版例は、必ずしも理想的な例でないものも示した。

1 アラビア数字との混植例

1) 横組の1桁または2桁のアラビア数字の混植例

例 1.1 アラビア数字の全角を用いた例

40年ほどの前の昭和3年の10月26日のこと、7つの5人のグループ、合計35人が、2つに分かれ、各自18キロの荷をもって、9キロ先の目的地に向かった。

例 1.2 アラビア数字の従属書体を用い、四分アキの例

40年ほどの前の昭和5年の10月26日のこと、7つの5人のグループ、合計35人が、2つに分かれ、各自18キロの荷をもって、9キロ先の目的地に向かった。

例 1.3 アラビア数字の従属書体を用い、四分アキの例

40年ほどの前の昭和5年の10月26日のこと、7つの5人のグループ、合計35人が、2つに分かれ、各自18キロの荷をもって、9キロ先の目的地に向かった。

例 1.4 アラビア数字の従属書体を用い、四分アキの例

40年ほどの前の昭和5年の10月26日のこと、7つの5人のグループ、合計35人が、2つに分かれ、各自18キロの荷をもって、9キロ先の目的地に向かった。

例 1.5 アラビア数字の従属書体を用い、ベタ組の例

40年ほどの前の昭和5年の10月26日のこと、7つの5人のグループ、合計35人が、2つに分かれ、各自18キロの荷をもって、9キロ先の目的地に向かった。

組版例 組版例では、原則として行の調整処理で字間のアキ処理が行われないように、“行頭そろえ”で処理している。

例 1.2 この例の数字の字幅は、二分よりやや広い。

例 1.3 この例では、OTFの機能で、数字の字幅は二分にした。

例 1.4 この例はフォントを変更し、数字の字幅は二分のものにした。

例 1.2 この例の数字の字幅は、二分よりやや広い。

例 1.6 アラビア数字の従属書体を用い、ベタ組の例

40年ほどの前の昭和5年の10月26日のこと、7つの5人のグループ、合計35人が、2つに分かれ、各自18キロの荷をもって、9キロ先の目的地に向かった。

例 1.7 アラビア数字の従属書体を用い、六分アキの例 1

40年ほどの前の昭和5年の10月26日のこと、7つの5人のグループ、合計35人が、2つに分かれ、各自18キロの荷をもって、9キロ先の目的地に向かった。

例 1.8 アラビア数字の従属書体を用い、六分アキの例 2

40年ほどの前の昭和5年の10月26日のこと、7つの5人のグループ、合計35人が、2つに分かれ、各自18キロの荷をもって、9キロ先の目的地に向かった。

例 1.9 アラビア数字の従属書体を用い、八分アキの例 1

40年ほどの前の昭和5年の10月26日のこと、7つの5人のグループ、合計35人が、2つに分かれ、各自18キロの荷をもって、9キロ先の目的地に向かった。

例 1.10 アラビア数字の従属書体を用い、八分アキの例 2

40年ほどの前の昭和5年の10月26日のこと、7つの5人のグループ、合計35人が、2つに分かれ、各自18キロの荷をもって、9キロ先の目的地に向かった。

例 1.11 アラビア数字の従属書体を用い、前後は欧文スペース

40年ほどの前の昭和5年の10月26日のこと、7つの5人のグループ、合計35人が、2つに分かれ、各自18キロの荷をもって、9キロ先の目的地に向かった。

40年ほどの前の昭和5年の10月26日のこと、7つの5人のグループ、合計35人が、2つに分かれ、各自18キロの荷をもって、9キロ先の目的地に向かった。

例 1.6 この例はフォントを変更し、数字の字幅は二分のものにした。

例 1.7 この例の数字の字幅は、二分よりやや広い。

例 1.8 この例はフォントを変更し、数字の字幅は二分のものにした。

例 1.9 この例の数字の字幅は、二分よりやや広い。

例 1.10 この例はフォントを変更し、数字の字幅は二分のものにした。

例 1.11 前のものは行頭そろえ、後ろのものはジャスティファイしてある。

2) 縦組の1桁または2桁のアラビア数字の混植例

例の番号は左からである。

例 1.12 従属書体を用い、全角数字使用した例

例 1.13 従属書体を用い、縦中横にした例 1

例 1.14 従属書体を用い、縦中横にした例 2

例 1.15 従属書体を用い、縦中横にした例 3

例 1.16 従属書体を用い、縦中横にし、前後四分アキの例

1 8 キ ロ の 荷 を も っ て 、 9 キ ロ 先 の 目 的 地 に 向 か っ た 。	4 0 年 ほ ど の 前 の 昭 和 3 年 の 1 0 月 2 6 日 の こ と 、 7 つ の 5 人 の グ ル ー プ 、 合 計 3 5 人 が 、 2 つ に 分 か れ 、 各 自 1 8 キ ロ の 荷 を も っ て 、 9 キ ロ 先 の 目 的 地 に 向 か っ た 。	荷 を も っ て 、 9 キ ロ 先 の 目 的 地 に 向 か っ た 。	4 0 年 ほ ど の 前 の 昭 和 5 年 の 1 0 月 2 6 日 の こ と 、 7 つ の 5 人 の グ ル ー プ 、 合 計 3 5 人 が 、 2 つ に 分 か れ 、 各 自 1 8 キ ロ の 荷 を も っ て 、 9 キ ロ 先 の 目 的 地 に 向 か っ た 。	荷 を も っ て 、 9 キ ロ 先 の 目 的 地 に 向 か っ た 。	4 0 年 ほ ど の 前 の 昭 和 5 年 の 1 0 月 2 6 日 の こ と 、 7 つ の 5 人 の グ ル ー プ 、 合 計 3 5 人 が 、 2 つ に 分 か れ 、 各 自 1 8 キ ロ の 荷 を も っ て 、 9 キ ロ 先 の 目 的 地 に 向 か っ た 。	5 人 の グ ル ー プ 、 合 計 3 5 人 が 、 2 つ に 分 か れ 、 各 自 1 8 キ ロ の 荷 を も っ て 、 9 キ ロ 先 の 目 的 地 に 向 か っ た 。	4 0 年 ほ ど の 前 の 昭 和 5 年 の 1 0 月 2 6 日 の こ と 、 7 つ の 5 人 の グ ル ー プ 、 合 計 3 5 人 が 、 2 つ に 分 か れ 、 各 自 1 8 キ ロ の 荷 を も っ て 、 9 キ ロ 先 の 目 的 地 に 向 か っ た 。
---	---	--	---	--	---	---	---

例 1.13 この例の数字の字幅は、二分よりやや広い。

例 1.14 この例では、OTFの機能で、数字の字幅は二分にした。

例 1.15 この例はフォントを変更し、数字の字幅は二分のものにした。

例 1.16 この例の数字の字幅は、二分よりやや広い。

2 欧字との混植例

1) 横組の欧字1文字の混植例

例 2.1 欧字に全角文字を用いた例

小文字 a や c, また e といった短字, f や h または i 等のアッセンダー, g や j, y のようにデッセンダーのある字, 大文字 A や B のほか, 幅のある M と W, 狭い I 等がある。

例 2.2 欧字に従属文字を用い、四分アキにした例

小文字 a や c, また e といった短字, f や h または i 等のアッセンダー, g や j, y のようにデッセンダーのある字, 大文字 A や B のほか, 幅のある M と W, 狭い I 等がある。

例 2.3 欧字に従属文字を用い、ベタ組にした例

小文字 a や c, また e といった短字, f や h または i 等のアッセンダー, g や j, y のようにデッセンダーのある字, 大文字 A や B のほか, 幅のある M と W, 狭い I 等がある。

例 2.4 欧字に従属文字を用い、六分アキにした例

小文字 a や c, また e といった短字, f や h または i 等の
アッセンダー, g や j, y のようにデッセンダーのある
字, 大文字 A や B のほか, 幅のある M と W, 狭い I 等
がある。

例 2.5 欧字に従属文字を用い、八分アキにした例

小文字 a や c, また e といった短字, f や h または i 等の
アッセンダー, g や j, y のようにデッセンダーのある字,
大文字 A や B のほか, 幅のある M と W, 狭い I 等がある。

例 2.6 欧字に従属文字を用い、前後は欧文スペース

小文字 a や c, また e といった短字, f や h または i
等のアッセンダー, g や j, y のようにデッセンダーの
ある字, 大文字 A や B のほか, 幅のある M と W, 狭
い I 等がある。

小文字 a や c, また e といった短字, f や h または i
等のアッセンダー, g や j, y のようにデッセンダーの
ある字, 大文字 A や B のほか, 幅のある M と W, 狭
い I 等がある。

例 2.6 前のものは行頭そろえ, 後ろの
ものはジャスティファイしてある。

2) 縦組の欧字 1 文字の混植例

例の番号は左からである。

例 2.7 欧字に全角文字を用いた例

例 2.8 欧字に従属文字を用い縦中横にした例

例 2.9 欧字に従属文字を用い縦中横にし、四分アキにした例

<p>小文字 a や c, また e といった短字、f や h または i 等のアッセンダー、g や j、y のようにデッセンダーのある字、大文字 A や B のほか、幅のある M と W、狭い I 等がある。</p>	<p>小文字 a や c、また e といった短字、f や h または i 等のアッセンダー、g や j、y のようにデッセンダーのある字、大文字 A や B のほか、幅のある M と W、狭い I 等がある。</p>	<p>小文字 a や c、また e といった短字、f や h または i 等のアッセンダー、g や j、y のようにデッセンダーのある字、大文字 A や B のほか、幅のある M と W、狭い I 等がある。</p>
---	--	--

3) 横組の欧字の単語1つの混植例

例 2.10 欧字に全角文字を用いた例

注noteには脚注footnoteや後注endnote, あるいは頭注headnote, 縦組での傍注sidenoteなどがある. 本には見出しheadingがあり, それには副題subtitleがつく場合もある. 文章は段落paragraphで区切られ, ページpageは, 複数の段columnになる例もある.

例 2.11 欧字に従属文字を用い, 四分アキにした例

注noteには脚注footnoteや後注endnote, あるいは頭注headnote, 縦組での傍注sidenoteなどがある. 本には見出しheadingがあり, それには副題subtitleがつく場合もある. 文章は段落paragraphで区切られ, ページpageは, 複数の段columnになる例もある.

例 2.12 欧字に従属文字を用い, ベタ組にした例

注noteには脚注footnoteや後注endnote, あるいは頭注headnote, 縦組での傍注sidenoteなどがある. 本には見出しheadingがあり, それには副題subtitleがつく場合もある. 文章は段落paragraphで区切られ, ページpageは, 複数の段columnになる例もある.

例 2.13 欧字に従属文字を用い, 六分アキにした例

注noteには脚注footnoteや後注endnote, あるいは頭注headnote, 縦組での傍注sidenoteなどがある. 本には見出しheadingがあり, それには副題subtitleがつく場合もある. 文章は段落paragraphで区切られ, ページpageは, 複数の段columnになる例もある.

例 2.14 欧字に従属文字を用い, 八分アキにした例

注noteには脚注footnoteや後注endnote, あるいは頭注headnote, 縦組での傍注sidenoteなどがある. 本には見出しheadingがあり, それには副題subtitleがつく場合もある. 文章は段落paragraphで区切られ, ページpageは, 複数の段columnになる例もある.

例 2.15 欧字に従属文字を用い, 前後は欧文スペース

注noteには脚注footnoteや後注endnote, あるいは頭注headnote, 縦組での傍注sidenoteなどがある. 本には見出しheadingがあり, それには副題subtitleがつく場合もある. 文章は段落paragraphで区切られ, ページpageは, 複数の段columnになる例もある.

例 2.15 前のものは行頭そろえ, 後ろのものはジャスティファイしてある.

注 note には脚注 footnote や後注 endnote, あるいは頭注 headnote, 縦組での傍注 sidenote などがある。本には見出し heading があり, それには副題 subtitle がつく場合もある。文章は段落 paragraph で区切られ, ページ page は, 複数の段 column になる例もある。

4) 縦組の欧字の単語1つの混植例

例の番号は左からである。

例 2.16 欧字に全角文字を用いた例

例 2.17 欧字に従属文字を用い, 四分アキにした例

例 2.18 欧字に従属文字を用い, ベタ組にした例

例 2.19 欧字に従属文字を用い, 欧字を縦向きにした例

注noteには脚注footnoteや後注endnote、あるいは頭注headnote、縦組での傍注sidenoteなどがある。本には見出しheadingがあり、それには副題subtitleがつく場合もある。文章は段落paragraphで区切られ、ページpageは、複数の段columnになる例もある。

注noteには脚注footnoteや後注endnote、あるいは頭注headnote、縦組での傍注sidenoteなどがある。本には見出しheadingがあり、それには副題subtitleがつく場合もある。文章は段落paragraphで区切られ、ページpageは、複数の段columnになる例もある。

注noteには脚注footnoteや後注endnote、あるいは頭注headnote、縦組での傍注sidenoteなどがある。本には見出しheadingがあり、それには副題subtitleがつく場合もある。文章は段落paragraphで区切られ、ページpageは、複数の段columnになる例もある。

注noteには脚注footnoteや後注endnote、あるいは頭注headnote、縦組での傍注sidenoteなどがある。本には見出しheadingがあり、それには副題subtitleがつく場合もある。文章は段落paragraphで区切られ、ページpageは、複数の段columnになる例もある。

5) 横組の大文字の欧字の略語1つの混植例

例 2.20 欧字に全角文字を用いた例

世界保健機関WHOや世界知的所有権機関WIPO, また児童関係ではUNICEFUとNESCO, さらに石油輸出国機構OPECや国際通貨基金IMFや東南アジア諸国連合ASEAN, またCARICOMカリブ共同体などもある。

例 2.21 欧字に従属文字を用い, 四分アキにした例

世界保健機関 WHO や世界知的所有権機関 WIPO, また児童関係では UNICEFU と NESCO, さらに石油輸出国機構 OPEC や国際通貨基金 IMF や東南アジア諸国連合 ASEAN, また CARICOM カリブ共同体などもある。

例 2.22 欧字に従属文字を用い、ベタ組にした例

世界保健機関WHOや世界知的所有権機関WIPO，また児童関係ではUNICEFUとNESCO，さらに石油輸出国機構OPECや国際通貨基金IMFや東南アジア諸国連合ASEAN，またCARICOMカリブ共同体などもある。

例 2.23 欧字に従属文字を用い、六分アキにした例

世界保健機関 WHO や世界知的所有権機関 WIPO，また児童関係では UNICEFU と NESCO，さらに石油輸出国機構 OPEC や国際通貨基金 IMF や東南アジア諸国連合 ASEAN，また CARICOM カリブ共同体などもある。

例 2.24 欧字に従属文字を用い、八分アキにした例

世界保健機関 WHO や世界知的所有権機関 WIPO，また児童関係では UNICEFU と NESCO，さらに石油輸出国機構 OPEC や国際通貨基金 IMF や東南アジア諸国連合 ASEAN，また CARICOM カリブ共同体などもある。

例 2.25 欧字に従属文字を用い、前後は欧文スペース

世界保健機関 WHO や世界知的所有権機関 WIPO，また児童関係では UNICEFU と NESCO，さらに石油輸出国機構 OPEC や国際通貨基金 IMF や東南アジア諸国連合 ASEAN，また CARICOM カリブ共同体などもある。

世界保健機関 WHO や世界知的所有権機関 WIPO，また児童関係では UNICEFU と NESCO，さらに石油輸出国機構 OPEC や国際通貨基金 IMF や東南アジア諸国連合 ASEAN，また CARICOM カリブ共同体などもある。

6) 縦組の大文字の欧字の略語 1 つの混植例

例の番号は左からである。

例 2.26 欧字に全角文字を用いた例

例 2.27 欧字に従属文字を用い、四分アキにした例

例 2.28 欧字に従属文字を用い、ベタ組にした例

例 2.29 欧字に従属文字を用い、欧字を縦向きにした例

世界保健機関WHOや世界的所有権機関WIPO、また児童関係ではUNICEFUと、NEESCOさらに石油輸出国機構OPECや国際通貨基金IMFや東南アジア諸国連合ASEAN、またCARICOMカリブ共同体などもある。

世界保健機関WHOや世界的所有権機関WIPO、また児童関係ではUNICEFUと、NEESCOさらに石油輸出国機構OPECや国際通貨基金IMFや東南アジア諸国連合ASEAN、またCARICOMカリブ共同体などもある。

世界保健機関WHOや世界的所有権機関WIPO、また児童関係ではUNICEFUと、NEESCO、さらに石油輸出国機構OPECや国際通貨基金IMFや東南アジア諸国連合ASEAN、またCARICOMカリブ共同体などもある。

世界保健機関WHOや世界的所有権機関WIPO、また児童関係ではUNICEFUと、NEESCO、さらに石油輸出国機構OPECや国際通貨基金IMFや東南アジア諸国連合ASEAN、またCARICOMカリブ共同体などもある。

7) 横組の複数の単語の混植例

例 2.30 欧字に全角文字を用いた例

経済学ではサミュエルソンPaul Anthony SamuelsonやヒックスJohn Richard Hicks, 投入産出分析で受賞したレオンチェフWassily Leontief, スウェーデンの経済学者であるミュルダールKarl Gunnar Myrdal等, またハイエクFriedrich August von Hayekも忘れてはいけない。

例 2.31 欧字に従属文字を用い、四分アキにした例

経済学ではサミュエルソンPaul Anthony SamuelsonやヒックスJohn Richard Hicks, 投入産出分析で受賞したレオンチェフWassily Leontief, スウェーデンの経済学者であるミュルダールKarl Gunnar Myrdal等, またハイエクFriedrich August von Hayekも忘れてはいけない。

例 2.32 欧字に従属文字を用い、ベタ組にした例

経済学ではサミュエルソンPaul Anthony SamuelsonやヒックスJohn Richard Hicks, 投入産出分析で受賞したレオンチェフWassily Leontief, スウェーデンの経済学者であるミュルダールKarl Gunnar Myrdal等, またハイエクFriedrich August von Hayekも忘れてはいけない。

例 2.33 欧字に従属文字を用い，六分アキにした例

経済学ではサミュエルソン Paul Anthony Samuelson やヒックス John Richard Hicks，投入産出分析で受賞したレオンチェフ Wassily Leontief，スウェーデンの経済学者であるミュルダール Karl Gunnar Myrdal 等，またハイエク Friedrich August von Hayek も忘れてはいけない。

例 2.34 欧字に従属文字を用い，八分アキにした例

経済学ではサミュエルソン Paul Anthony Samuelson やヒックス John Richard Hicks，投入産出分析で受賞したレオンチェフ Wassily Leontief，スウェーデンの経済学者であるミュルダール Karl Gunnar Myrdal 等，またハイエク Friedrich August von Hayek も忘れてはいけない。

例 2.35 欧字に従属文字を用い，前後は欧文スペース

経済学ではサミュエルソン Paul Anthony Samuelson やヒックス John Richard Hicks，投入産出分析で受賞したレオンチェフ Wassily Leontief，スウェーデンの経済学者であるミュルダール Karl Gunnar Myrdal 等，またハイエク Friedrich August von Hayek も忘れてはいけない。

経済学ではサミュエルソン Paul Anthony Samuelson やヒックス John Richard Hicks，投入産出分析で受賞したレオンチェフ Wassily Leontief，スウェーデンの経済学者であるミュルダール Karl Gunnar Myrdal 等，またハイエク Friedrich August von Hayek も忘れてはいけない。

8) 縦組の複数の単語の混植例

例の番号は左からである。

例 2.36 欧字に全角文字を用いた例

例 2.37 欧字に従属文字を用い，四分アキにした例

例 2.38 欧字に従属文字を用い，ベタ組にした例

例 2.39 欧字に従属文字を用い，欧字を縦向きにした例

経済学ではサミュエルソン Paul Anthony Samuelson やヒックス John Richard Hicks、投入産出分析で受賞したレオンチェフ Wassily Leontief、スウェーデンの経済学者であるミューダール Karl Gunnar Myrdal 等、またハイエク Friedrich August von Hayek も忘れてはいけない。

経済学ではサミュエルソン Paul Anthony Samuelson やヒックス John Richard Hicks、投入産出分析で受賞したレオンチェフ Wassily Leontief、スウェーデンの経済学者であるミューダール Karl Gunnar Myrdal 等、またハイエク Friedrich August von Hayek も忘れてはいけない。

経済学ではサミュエルソン Paul Anthony Samuelson やヒックス John Richard Hicks、投入産出分析で受賞したレオンチェフ Wassily Leontief、スウェーデンの経済学者であるミューダール Karl Gunnar Myrdal 等、またハイエク Friedrich August von Hayek も忘れてはいけない。

経済学ではサミュエルソン Paul Anthony Samuelson やヒックス John Richard Hicks、投入産出分析で受賞したレオンチェフ Wassily Leontief、スウェーデンの経済学者であるミューダール Karl Gunnar Myrdal 等、またハイエク Friedrich August von Hayek も忘れてはいけない。

3 和文と欧文を並列した例

例 3.1 和文の行間に欧文をそろえた例

すべての文化集団は、独自の言語、文字、書記システムを持つ。それゆえ、個々の書記システムをサイバースペースに移転することは、文化的資産の継承という意味で、情報通信技術にとって非常に重要な責務といえよう。

Each cultural community has its own language, script and writing system. In that sense, the transfer of each writing system into cyberspace is a task with very high importance for information and communication technology.

この責務を実現するための基礎的な作業として、この文書では、日本語という書記システムにおける組版上の問題点をまとめた。具体的な解決策を提示することではなく、要望事項の説明をすることにした。それは、実装レベルの問題を考える前提条件をまず明確にすることが重要であると考えたからである。

As one of the basic work items of this task force, this document describes issues of text composition in the Japanese writing system. The goal of the task force is not to propose actual solutions but describe important issues as basic information for actual implementations.

例 3.1 和文はジャスティファイ、欧文は行頭そろえとした。以下も同様である。

例 3.2 欧文の行間に和文をそろえた例

すべての文化集団は、独自の言語、文字、書記システムを持つ。それゆえ、個々の書記システムをサイバースペースに移転することは、文化的資産の継承という意味で、情報通信技術にとって非常に重要な責務といえよう。

Each cultural community has its own language, script and writing system. In that sense, the transfer of each writing system into cyberspace is a task with very high importance for information and communication technology.

この責務を実現するための基礎的な作業として、この文書では、日本語という書記システムにおける組版上の問題点をまとめた。具体的な解決策を提示することではなく、要望事項の説明をすることにした。それは、実装レベルの問題を考える前提条件をまず明確にすることが重要であると考えたからである。

As one of the basic work items of this task force, this document describes issues of text composition in the Japanese writing system. The goal of the task force is not to propose actual solutions but describe important issues as basic information for actual implementations.

例 3.3 和文と欧文をそれぞれ設定した例

すべての文化集団は、独自の言語、文字、書記システムを持つ。それゆえ、個々の書記システムをサイバースペースに移転することは、文化的資産の継承という意味で、情報通信技術にとって非常に重要な責務といえよう。

Each cultural community has its own language, script and writing system. In that sense, the transfer of each writing system into cyberspace is a task with very high importance for information and communication technology.

この責務を実現するための基礎的な作業として、この文書では、日本語という書記システムにおける組版上の問題点をまとめた。具体的な解決策を提示することではなく、要望事項の説明をすることにした。それは、実装レベルの問題を考える前提条件をまず明確にすることが重要であると考えたからである。

As one of the basic work items of this task force, this document describes issues of text composition in the Japanese writing system. The goal of the task force is not to propose actual solutions but describe important issues as basic information for actual implementations.

4 その他の様々な例

1) 欧字・数字と約物の連続例

例 4.1 順序を示す欧字・数字とパーレン

- a) 和文では…
- b) 数字では…
- a) 和文では…
- b) 数字では…
- a) 和文では…
- b) 数字では…

例 4.1 上から従属書体+全角パーレン、従属書体+半角パーレン+欧文語間、全角欧字+全角パーレンである。

- 1) 和文では…
- 2) 数字では…
- 1) 和文では…
- 2) 数字では…
- 1) 和文では…
- 2) 数字では…

例 4.2 欧字をパーレンでくくる

ポイント (point) を用い, 左右中央 (中央そろえ centering) に
 ポイント (point) を用い, 左右中央 (中央そろえ centering) に
 ポイント (point) を用い, 左右中央 (中央そろえ centering) に
 ポイント (point) を用い, 左右中央 (中央そろえ centering) に
 ポイント (point) を用い, 左右中央 (中央そろえ centering) に
 ポイント (point) を用い, 左右中央 (中央そろえ centering) に

例 4.1 上から従属書体+全角パーレン, 従属書体+全角パーレン (前後はベタ), 半角パーレン (前後はベタ), 半角パーレン (前後は欧文語間), 欧文の後ろのみ半角パーレン (後ろはベタ), 欧文の後ろのみ半角パーレン (後ろは欧文語間) である.

例 4.3 順序を示す欧字と数字の後ろのコンマやピリオド

- | | |
|----------|----------|
| 1, 和文では… | 1, 和文では… |
| 2, 数字では… | 2, 数字では… |
| 1, 和文では… | 1, 和文では… |
| 2, 数字では… | 2, 数字では… |
| 1, 和文では… | 1, 和文では… |
| 2, 数字では… | 2, 数字では… |
| 1, 和文では… | 1, 和文では… |
| 2, 数字では… | 2, 数字では… |
| 1, 和文では… | 1, 和文では… |
| 2, 数字では… | 2, 数字では… |
| 1, 和文では… | 1, 和文では… |
| 2, 数字では… | 2, 数字では… |
| 1, 和文では… | 1, 和文では… |
| 2, 数字では… | 2, 数字では… |
| 1, 和文では… | 1, 和文では… |
| 2, 数字では… | 2, 数字では… |
| 1, 和文では… | 1, 和文では… |
| 2, 数字では… | 2, 数字では… |

例 4.1 上から従属書体+全角コンマ (ピリオド), 全角数字 (欧字)+全角コンマ (ピリオド), 従属書体+半角コンマ (ピリオド), 従属書体+半角コンマ (ピリオド) +全角スペースである

例 4.4 数字の範囲の示し方

- 20—60人
- 20-60人
- 20-60人
- 20~60人
- 20~60人
- 20~60人

例 4.5 桁数の多い数字の表記例

- 3, 456, 789円
- 3, 456, 789円
- 3,456,789円

3,456,789 円
 3 456 789 円
 3 4 5 万 6 7 8 9 円
 345 万 6789 円

例 4.6 小数点の表記例

3. 1 4 3. 14 3.14 3.14

例 4.7 概数の表記例

2, 3 人 2、3 人 2, 3 人 2、3 人
 2,3 人 2,3 人 2,3 人 2,3 人
 二三人 二、三人 二、三人 二、三人 二、三人
 2, 3 0 0 人 2、3 0 0 人 2, 300 人 2, 300 人
 2,300 人 2,300 人 2,300 人 2,300 人
 二三〇〇人 二三百人 二、三〇〇人 二、三百人
 二,三〇〇人 二、三百人

例 4.7 アラビア数字の最後の2つは、従属書体(欧文)のコンマを使用し、前は、コンマの後ろを四分アキ、後ろは欧文語間スペースを入れた例である。

例 4.8 数字・欧字の併記例

3, 4, 5 3、4、5 3, 4, 5 3、4、5
 3,4,5 3,4,5 3,4,5 3,4,5
 a, b, c a、b、c a, b, c a、b、c
 a,b,c a,b,c a,b,c a,b,c

例 4.8 数字と欧字の最後の2つは、従属書体(欧文)のコンマを使用し、前は、コンマの後ろを四分アキ、後ろは欧文語間スペースを入れた例である。

例 4.9 縦組でのアラビア数字の使用例

3	3	3	12	12	12	12
・	・	・	万	万	万	万
1	1	14	3	3	3	3
4	4		0	0	0	0
			0	0	0	0
		3	0	0	0	0
3	3	14	円	円	円	円
・	・					
1	1					
4	4					

例 4.10 人名の表記例

J・K・アカーロフ	スティーブン・A・スミス
J・K・アカーロフ	スティーブン・A・スミス
J・K・アカーロフ	スティーブン・A・スミス
J. K. アカーロフ	スティーブン A. スミス
J.K. アカーロフ	スティーブン A. スミス
J.K.アカーロフ	スティーブンA.スミス
J.K. アカーロフ	スティーブン・A. スミス
J. K. アカーロフ	スティーブン A. スミス

例 4.11 人名の最後の3列は従属書体(欧文)のピリオドを使用し、2列目はピリオドの後ろは四分アキ、3列目はピリオドの後ろに欧文語間スペースを入れた例である。

例 4.11 単位記号と%の例

重さ 2 5 k g の荷物	重さ 25 k g の荷物
重さ25kgの荷物	重さ 25kg の荷物

重さ 25 kg の荷物 重さ 25 kg の荷物
加速度は 25 m/s² であった
加速度は 25 m·s⁻² であった
加速度は 25 m s⁻² であった
割合は 38% であった
割合は 38 % であった
割合は 38 % であった

例 4.11 25 kg の最後の例の右側は、数字と記号の間に欧文語間スペースを入れた例である。